

みんぱく



主催—国立民族学博物館
協賛—中華民国(台湾)文化部「台湾文化光点計画」
協力—台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター

民族誌映画にみる文化への視点

台湾、日本、ノルウェー、エチオピアの作品より

台湾文化光点計画上映会・シンポジウム



開催日：2016年11月12日〔土〕、13日〔日〕

時間：両日ともに 10:30～16:30 (開場 10:00)

場所：国立民族学博物館 講堂

定員：450名 先着順《要展示観覧券》



本会では、台湾原住民の映像作家が、自らの文化や社会の変容をテーマに制作した民族誌映画の上映を行います。さらに台湾との比較の見地から、ノルウェーの先住民や、日本、エチオピアのマイノリティの音楽文化をテーマにした民族誌映画の上映を行います。台湾原住民による作品を世界の他の国々の研究者の作品と並べて上映することによって、台湾文化の独自性や創造力、各作り手の映像に対する価値観や思考を浮き彫りにします。あわせてシンポジウムを開催し、それぞれの主題に関する映像のアプローチについて制作者間で議論を行います。



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology



Schedule

11月12日[土]《1日目》

10:00	開場
10:30	開始・挨拶
	司会 川瀬慈 (国立民族学博物館・助教) 野林厚志 (国立民族学博物館・教授) 朱文清 (台湾文化センター・センター長)
10:45 - 11:45	「虹の物語」上映
11:45 - 12:00	制作者紹介・挨拶
12:00 - 13:00	休憩
13:00 - 14:05	「靈山」上映
14:05 - 14:20	制作者紹介・挨拶
14:20 - 14:45	休憩
14:45 - 15:45	「受け継ぐ人々」上映
15:45 - 16:00	制作者紹介・挨拶

11月13日[日]《2日目》

10:00	開場
10:30 - 11:15	「僕らの時代は」上映
11:15 - 11:30	制作者紹介・挨拶
11:30 - 11:50	休憩
11:50 - 13:15	「怒 大阪浪速の太鼓集団」上映
13:15 - 13:30	制作者紹介・挨拶
13:30 - 14:30	休憩
14:30 - 16:30	シンポジウム
	各作品解説 パネルディスカッション

台湾文化光点計画

台湾文化光点計画は、中華民国(台湾)文化部が国際的な文化交流の促進を目的として実施している文化事業です。海外の芸術文化、學術機関、大学等における講演会や講座、展示、支援を通して、台湾の文化や歴史を多くの人びとに紹介しています。

国立民族学博物館では、2013年から台湾文化光点計画の助成を受け、台湾原住民族、客家の文化や歴史を紹介する講演会、映画会を実施してきました。

国立民族学博物館 National Museum of Ethnology

- 開館時間 10:00 ~ 17:00(入館は 16:30 まで)
 - 観覧料 一般 420 円 / 高校・大学生 250 円 / 小中学生 110 円
※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。
 - 交通のご案内
 - 大阪モノレール... 「万博記念公園駅」徒歩約 15 分
※自然文化園窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。
同園内を無料で通行できます。
「公園東口駅」徒歩約 15 分
※自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。
 - バス 阪急茨木市駅・JR 茨木駅から「万博記念公園駅(エキスポシティ前)」・「日本庭園前」下車徒歩約 13 分
万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約 5 分
※「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。
 - 休館日 水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)
年末年始(12月28日~1月4日)
- [大阪・万博記念公園]
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
企画課 博物館事業係
Tel:06-6878-8210 Fax:06-6878-8242
www.minpaku.ac.jp/



虹の物語 彩虹的故事

58 分 | 1998 年 | 比令亞布監督
中国語(日本語字幕)

タイヤル族の老人によれば、タイヤル族の者が亡くなると、死者の魂は虹を通してタイヤル族の天国に行くという。ただし、虹を通過する際、祖霊によって、死者の顔に刺青がほどこされているかどうか、厳しいチェックが入るのだという。もし、その顔に刺青がない場合、魂は天国に到達することができなくなるそう。私(監督)自身、タイヤル族の出自を持つ。本作は、タイヤル族の老人たちへの聞き取りを中心に、刺青と虹にまつわる物語について描いた。タイヤル族の伝統的な刺青文化が次第に消失していく過程をとらえつつ、伝統文化の復興という課題について考えたい。



靈山 靈山

61 分 | 2015 年 | 蘇弘恩監督
タロコ語(日本語字幕)

例えば過去 400 年を振り返ると、台湾は数々の政治体制の元に置かれてきたことがわかる。オランダ、スペイン、日本、そして中華民国、それぞれの国が、この島に大きな足跡を残してきたといえよう。これらの政治体制の変化に最も強く影響を受けてきたのが台湾の原住民だ。様々な統治者のもとで、原住民の分類のありかたや原住民であることの意識も変化してきた。本作の主人公はタロコ族の老人である。本作では、この老人のライフコースから、台湾原住民と原住民の権利回復運動の歴史を照射する。



受け継ぐ人々 Firekeepers

57 分 | 2007 年 | Rossella Ragazzi 監督
サーミ語、ノルウェー語、英語(日本語字幕)

若いサーミ先住民であるラウラとサラはサーミの伝統的な歌唱法ヨイクの伝統の継承と革新にとりくんでいる。ヨイクは長い間、シャーマニックな実践として位置づけられ、キリスト教の教会からは、“邪悪な表現”というレッテルをはられてきた。また、二人の先祖たちは、ノルウェー政府による先住民文化の抑圧や同化政策のなかで苦しんできた。

本作では二人が率いるロックバンド Adjågas の活動を追いかけ、自らのコミュニティとの対話を大切にしつつも、グローバルな世界や音楽産業とのつながりのなかで、ヨイクの継承と革新をめざす主人公たちの葛藤を描き出す。



僕らの時代は Kids Got a Song to Sing

45 分 | 2006 年(2016 年再編集) | 川瀬慈監督
アズマリ隠語、アムハラ語(日本語字幕)

弦楽器マシニコを弾き語るアズマリは、エチオピア北部の地域社会において古くから音楽をなりわいにしてきた職能集団である。本作は、アズマリの少年少女が歩む人生の道程を、映像によって数年ごとに記録していくプロジェクトである。本作では、思春期の少年二人、タガブとイタイアに焦点をあてた。音楽職能を生きる二人の日々の営みや葛藤とともに、アズマリ集団内部における彼らと大人たちとのなわばり争い等を、撮影者と二人の対話を中心に描いた。



怒 大阪浪速の太鼓集団 Angry Drummers: A Taiko Group from Osaka, Japan

85 分 | 2010 年 | 寺田吉孝監督

この映像番組は、大阪市浪速区の被差別部落に活動の拠点を置く太鼓集団「怒」のドキュメンタリーである。同地区は、300 年以上の太鼓つくりの伝統をもつが、太鼓職人たちは皮革業に対する不浄観などから差別や偏見に晒される時期が長く続いた。「怒」は、あらゆる差別をなくすことをスローガンにして活動を続けている太鼓集団であるが、彼らの活動は、最初から差別の経験と直線的に結びついていたわけではない。番組では、メンバーたちが、個人的な楽しみで始めた太鼓演奏が、地元の支援を受けるにつれて、その支援の背景となっている差別の歴史を理解するようになり、太鼓演奏のなかに人権啓発の手段としての可能性を見出していくプロセスが描かれる。また、グループの活動に対するメンバーの意識や関わり方は一様ではなく、彼らが活動の拠点としている部落解放同盟浪速支部の運動形態・実践とも、一定の距離を置いている点が示される。